

第3学年 国語科学習指導案

1 組 計25人(男子8人 女子17人)

指導者 豊 重 真 奈 美

1 単 元 「大事なことをたしかめよう」(教材「すがたをかえる大豆」光村3年下)

2 単元について

(1) 単元の価値

本学級の子どもたちは、第3学年の「ありの行列」で、身近にいる「あり」の不思議さやおもしろさに触れ、内容を段落のまとまりごとに読む学習を行ってきた。また、書くことの教材については、「おもしろいもの、見つけた」で、事柄ごとに段落に分けて書くことを学んできている。

そこでここでは、大豆の加工法を紹介した文章から、段落やキーワードなどに注意して内容を読み取り、疑問や興味をもった食べ物について情報を収集、整理し、文章にまとめることをねらいとした単元を設定した。

教材「すがたをかえる大豆」は、身の回りにあふれている大豆をおいしく食べるための工夫と加工の種類について書かれた説明的な文章である。素材として大豆は、ほとんど毎日何らかの形で口に入っているため子どもたちの生活に身近なものである。しかし、見ただけでは大豆からできているとは気付かないものも多く、子どもたちが意外性を持ちながら読み進めることができる。さらに、科学的な読み物に興味、関心をもたせ、ジャンルを広げて読んでいくためのきっかけ作りに有効な教材でもある。

本単元で子どもたちは、「次に」「また」などの接続語や中心となる語や文を手がかりにすることで、文章構成が明らかになり、書かれている内容を確かめながら読み取ったり、整理したりすることができる。そして、興味をもった食べ物について、本を使って調べ読みをすることで、必要な情報を適切に収集、選択する初歩的な力を育てることができる。さらに、自分が調べた食べ物を分かりやすく紹介する文章を書き、それぞれが食べ物博士になって紹介したり、友達と読み合うことで、相手意識・目的意識をもって書くことの楽しさを味わうことができる。

ここでの学習は、今後、社会科や理科で興味や疑問をもったことへの情報収集にも生かし、意図的・計画的な図書館利用を通して、情報活用の基礎的能力の定着を具体的に図っていく。また、ここで学習したことが4年生での、段落と段落がつながって少し大きな意味のまとまりを作り、文章全体を構成していくことの学習へと発展していく。

(2) 単元の目標

- | | |
|--|-------------------|
| ○ 身近な食べ物について興味をもち、その不思議さや驚きを発見しながら、「食べ物シリーズの本」を読もうとしている。 | 【国語への関心・意欲・態度】 |
| ○ 興味をもった身近な食べ物について調べたことを、カードに書き出し、それを並べ替えて、「はじめ」「中」「終わり」に分けた文章を書くことができる。 | 【書く能力】 |
| ○ 大豆をおいしく食べる工夫や人が大豆に手を加えるときの言葉をとらえながら、段落ごとに内容をまとめて読むことができる。 | 【読む能力】 |
| ○ 指示語や接続語を適切に使うことができる。 | 【言語についての知識・理解・技能】 |

(3) 子どもの実態

ア 教科全般に関する実態

本学級の子どもたちは、これまでの学習の中で、植物や昆虫の名前を調べるとき、調べたい事柄の本を探し、必要な情報を自分で見つけ、見つけた情報をノートに書き写す活動をしながら、学習を楽しく進めてきている。本を探せないときは、司書補に尋ねながら、本を検索する子どももいるが、何の当てもなく図書室の本を探し回っている子どもも少なくない。見つけた本をお互いに見せ合ったり、初めて知ったことを友達に教えたりする姿も見られ、協力して学習に取り組める雰囲気であると感じている。また、つぶやきも多く、友達の考えにもよく共感したり、よさを見つけほめたりしている。しかしながら、大勢の

中や改まった場になると、萎縮してしまう子どもも少なくない。

イ 本単元の内容に関わる実態

① 動・植物のことで、知りたいことがあるときどうやって調べるか。(複数回答)
・家族や先生に聞く (16) ・本で調べる (14) ・くわしい友達に聞く (2) ・パソコンで (1)
② どんな本をよく読みますか。(複数回答)
・物語 (16) ・伝記 (13) ・図鑑 (3) ・昔話 (3) ・スポーツ選手の本 (2)
・シリーズもの (2) ・童話 (1)
③ 文を書くことは好きですか。
・好き (22) ……いろいろな人に自分の思ったことを知らせることができる。(16)
口で言いにくいことが、伝えられる。アイディアが浮かぶ。書くことが好き。
人を楽しませることができる。友達と交換して読みあえる。(各 1)
・あまり好きではない (3) ……何を書いたらいいか分からない (2) すぐに思いつかない (1)
④ どんな豆を知っているか。(複数回答)
・ピーナッツ (15) ・大豆 (14) ・豇 (1)
・えんどう豆 (13) ・枝豆 (12) ・空豆 (8) ・サヤエンドウ (7) ・小豆 (7) ・グリーンズ (2)

本学級の子どもたちは、興味や疑問をもったときの調べる手段として、多くの子どもたちが、身近な大人に聞くか、本で調べている。また、読書に対する興味・関心は高く、多くの子どもたちが図書室や学級文庫の本をよく読んでいる。1学期は、読書のジャンルが、かいけつゾロリなどのシリーズものや図鑑・絵本に偏りがちであったが、「三年とうげ」で行った本の帯作りで、友達の紹介した本を読んでみようとする姿が見られるようになり、少しずつではあるがジャンルが広がってきている。

文を書くことについては、大半の子どもたちが好きと答えているが、日頃の日記や作文を書くときには、何を書いてよいか、なかなか決められない子どもも見られる。指示語を手がかりに、文を並び替えて文章にすることは、大半の子どもたちはできているが、書かれている文章の中では、「そして」や「それから」以外の言葉を使う子どもは少ないようである。

本教材の内容に関しては、子どもたちにとって大豆は、身近に感じている豆の一つではないかと思われる。しかし、大豆と枝豆が同じものであると知っている子どもは、少ないのではないかと思われる。

3 指導に当たって

本単元では、子ども一人一人が学ぶことを楽しむことができるように以下の点に留意して指導する。

「つかむ」過程では、題名から教材文の内容を類推し、大豆の実物や加工品に触れたり、大豆がすがたをかえる必然性をもたせることで、教材文に興味・関心や問題意識をもつことができるようにする。そして、身の回りの食べ物に目を向け、「食べ物はかせ」になって友達に紹介し、本を作るという言語活動を設定し、目的意識をもって読み進められるようにする。

「深める」過程では、「工夫」と「すがた」、「手の加え方」を読みの視点として読み取ることで、大豆がさまざまに姿を変えていくことをとらえることができるようにする。この際、読みの能力に応じたワークシートを2種類準備することで、個に応じた読み取りができるようにする。また、段落を意識させながら、中心となる文や語句を段落ごとに比べて読み、段落相互の関係を捉えることができるようにする。接続語にも着目し、サイドラインを引かせ短文作り等を通して、日常の中で活用できるようにする。

「味わう・高める」過程では、自分が興味をもった身近な食べ物について「工夫」「すがた」「手の加え方」を視点として本で調べ、分かったこと、大事なことをカードにまとめるために選択する。そのカードを基に、事柄ごとに段落に分けて文章を書くことができるようにする。

「まとめる・広げる」過程では、「食べ物はかせ交流会」を開き、文章を読み合い、感想を交流することで、友達や自分の表現のよさに気付き、他の食べ物を調べてみたいという意欲の高まりや身の回りの食べ物に目を向けることができるようにする。また、「食べ物はかせ認定証」を授与することで、学習した成就感を味わうことができるようにする。

4 指導計画（全17時間）

は評価項目及び評価方法
●は研究の視点に関する内容（①は視点1，②は視点2）

過程	時間	主な学習活動	教師の指導
つ か む	2	1 教材文の「はじめ」の部分と大豆の実物とを重ね合わせて読む。	① 大豆が、すがたをかえる必然性をとらえさせながら、教材文や大豆の実物に触れさせ、学習への意欲を高めることができるようにする。
	(本時1/2)	2 「すがたをかえる大豆」の全文を読み、学習課題をつかみ、学習計画を立てる。 「食べ物のはかせ」になって、みんなで食べ物の本を作ろう。	大豆がなぜすがたをかえるのか考えながらはじめる部分を読み、これからの学習を見通しているか。(発表・観察)【国語への関心・意欲・態度】 ○ 自分の興味をもった食べ物を詳しく調べ、文章にまとめて食べ物の本を作ることを知らせることで学習の見通しをもてるようにする。 ○ 写真資料と大豆をおいしく食べる工夫を対応させることで、大豆がどんなものに姿を変えていくのか読み取ることができるようにする。
深 め る	5	3 「すがたをかえる大豆」を読み、大豆をおいしく食べる工夫について読み取る。 ○ 大豆の食べ方、おいしく食べる工夫と食品 ○ 大豆に人が手を加えるとすがたをかえる 【いる】【煮る】【ひく】 【すりつぶす】【絞り出す】	② 読む力にあったワークシートを準備することで、大豆をおいしく食べるための工夫や手の加え方、具体的な食品名を読み取ることができるようにする。 大豆をおいしく食べる工夫や人が大豆に手を加えるときの言葉をとらえながら、段落ごとに内容をまとめて読んでいくか。 (ワークシート・発表)【読む能力】
	8	4 文章構成を確かめ、「はじめ、中、終わり」の3つの大きなまとまりに分ける。 5 「食べ物のはかせになろう」を読み、本作りの準備をする。 ○ どの食べ物について調べるかを決め、計画を立てる。 ○ 本での調べ方を知る。 ○ 目的に合った図書資料を探す。 ○ 本で調べたことや調べて分かったことなどをカードにまとめる。 ○ 調べたことを整理し、段落を考えながら本にまとめる。	○ 既習の「ありの行列」を想起させることで、「このように」という言葉に着目することができるようにする。 ① 調べたいものが決まらない子どもには、いくつかの食べ物の例を提示し、そこから選択できるようにする。また、食べ物の「工夫」「すがた」「手の加え方」の視点を与えることで情報収集や選択がスムーズにできるようにする。 ○ 書く順番や段落を決める際に、1つの情報を1枚のカードに書き、内容ごとにまとめることができるようにする。
味 高 め う る			興味をもった身近な食べ物の「工夫」「すがた」「手の加え方」について調べたことを、カードに書き出し、それを並べ替えて、「はじめ」「中」「終わり」に分けた文章を書いているか。 (観察・カード・作品)【書く能力】
			指示語や接続語を適切に使うことができたか。 (観察・作品)【言語についての知識・理解・技能】
ま 広 と げ め る	2	6 「食べ物のはかせ」交流会を開く。 完成した本を読み合い、段落やまとめ方に着目しながら、感想を述べ合う。	② 書いた文章を読み合い感想を交流することで、友達の表現のよさに目を向け、今後の自分の表現に生かすことができるようにする。
		7 学習のまとめをし、「〇〇のはかせ」の認定式を行う。	○ 「〇〇のはかせ」認定証を与えることで、自分で調べて作品を作ったという成就感を味わわせる。

5 本 時 (1 / 17)

(1) 目 標
(2) 展 開

大豆が、どうしてすがたをかえるのか考えながら、これからの学習に期待をもつことができる。

教師の言葉かけ 予想される子どもの反応

重点評価項目 ◆重点評価項目を受けての指導

●は、研究の視点に基づく指導・支援 (①は視点1, ②は視点2)

過程	主 な 学 習 活 動 と 予 想 さ れ る 子 ど も の 反 応	教 師 の 指 導
つ か む (8)	1 題名からどんなことが書いてあるか考える。 「すがたをかえる○○」の「すがたをかえる」とは、どういうことなのか考えましょう。 2 いくつかの加工品を見て、何が変身したものか考える。 ここにある食べ物、何が変身して作られたものでしょう。 3 学習課題を確認する。 なぜ、大豆は、すがたをかえるのだろう。	○「すがたをかえる」とはどういうことかを考えさせることで、文章の内容を想像させ、教材文に興味をもたせることができるようにする。 ① いくつかの加工品を見せることで、何から作られているのかに興味をもち、本時の学習に意欲をもつて取り組むことができるようにする。 ○ 大豆から作られた食べ物を提示し、それらを食べた経験を発表させることで、身の回りの食べ物に対して関心をもつことができるようにする。 ○ 大豆の変身の驚きや疑問から、学習課題へとつなげていけるようにする。
深 め る (20)	4 教材文「すがたをかえる大豆」の「はじめ」の部分を読み、大豆がどうしてすがたをかえるのか発表する。 (1) 全員で、教材文を音読する。 (2) すがたをかえるわけを読み取る。 どうして、すがたをかえるのかな。そのことが、どこに書いてあるかな。 本物の大豆をしっかりとさわってみましょう。 大豆の硬さは、どれくらいかな。	大豆が、どうしてすがたをかえるのか考えながら、教材文や大豆に触れているか。 (発表・観察)【国語への関心・意欲・態度】 ◆ 大豆がすがたをかえることを、教材文と大豆の実物と関連付けながら考えている子ども → 大豆がどのようにすがたをかえると、どんな食品になるのかを考えさせる。 ◆ 大豆が、どうしてすがたをかえるのか、教材文から見つけられない子ども → 大豆の実物にじっくりと触れさせ、友達との交流の中で触れた感想を挙げさせる。
味高 わめ うる (10)	5 大豆以外に、すがたをかえる食べ物にはどんなものがあるか話し合う。 すがたをかえるものは、大豆だけかな。文の中から探してみましょう。	② 大豆以外のすがたをかえる食べ物が、教材文の中に示されていることを見つけ、実物に触れることで、大豆と同じようにおいしく食べるためにすがたをかえることに気付くことができるような発問の工夫をする。 ○ 本時の学習を振り返ることで、次時への読みにつなげられるようにする。 ○ 自分の興味をもった食べ物について調べ、「食べ物のはかせ」になることを伝えることで、目的をもって「すがたをかえる大豆」を読み取ることができるようにする。今後の学習の進め方を知らせることで、学習への見通しをもって取り組むことができるようにする。
ま広 とげ める る (7)	6 本時の学習を振り返り、学習のまとめをする。 今日の学習でどんなことが分かりましたか。 大豆は、そのままでは硬いので食べにくく、消化もよくないの。すがたをかえて食べていることが分かりました。 次は、大豆をおいしく食べるために、どんな手の加え方や工夫をしているのか、読み取っていきましよう。そして、いろいろなすがたをかえる食べ物について本で調べて、「食べ物のはかせ」になりましよう。	おいしく食べる工夫には、どんなものがあるんだろう。 すがたをかえる食べ物を探してみよう。 よし、「食べ物のはかせ」になるぞ。